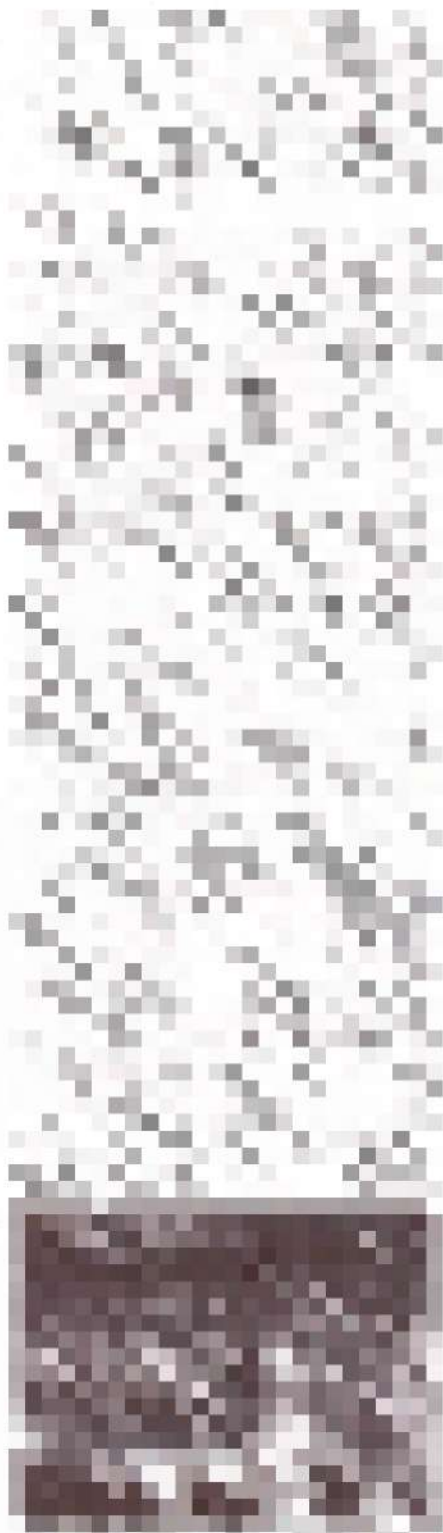
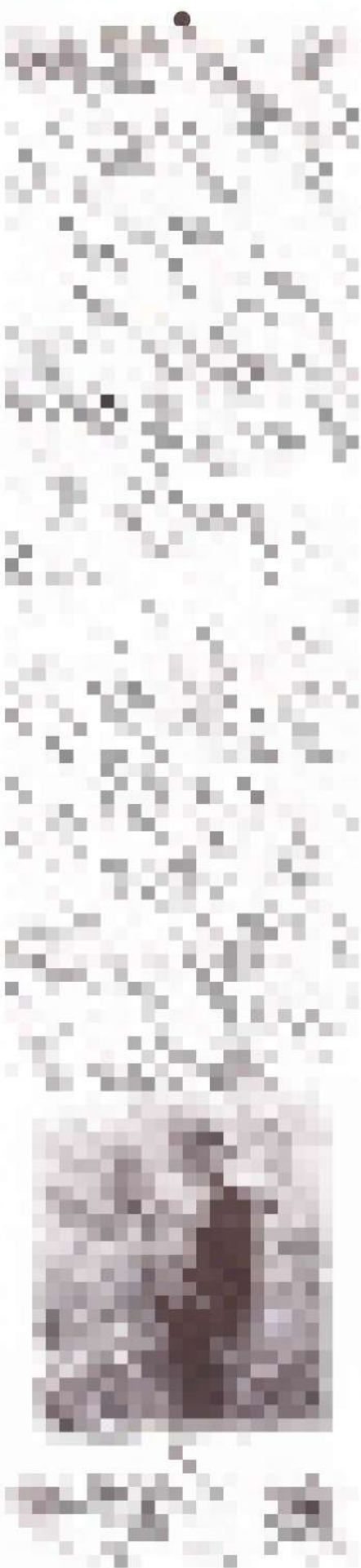


Scramble Shot



「19世紀、最も多く作曲された詩人の一人」であるニコラウス・レーナウの詩が持つメロディに魅せられたホリガーは、レーナウの詩をクリスティアン・ゲルハーヘルのためにピアノ伴奏付き歌曲にし、5年前に当劇場で世界初演しているが、今回は23のシーンからなるレーナウの精神世界をオペラという形で表現することに成功した。

まず気付くのは、メロディとしての音楽ではなく、ドイツ語の抑揚やその子音から音楽が自然発生的に生まれていることだ。その上に、レーナウの精神状態を表す音や観客への効果音としての音楽が散りばめられている。その中で主演のゲルハーヘル他、愛人のソフィ役を歌ったユリアーネ・バンゼ、妹役のアンネッテ・シェーンミュラーらのふくよかな響きを帯びた声が人間的な温か味を与え、時折マリイ役とカロリーネ役の一人二役を演じたサラ・マリア・サンの声がレーナウの抱える狂気を思い出させる。

2時間で繰り返される23のスケッチは、ページをめくるように引き戸で区切った演出により、ロマン派のドイツ文学を読んでいるような効果を与えられ、また、11、5シーン目でそれが逆戻りするというホリガーのト書きも、忠実に再現することを可能にしていた。終演後、観客の理解度の高さにも驚かされた。（中 東生）



レーナウの精神世界をオペラで表現したホリガー《ルネア》から ©Paul Leclair

Opera チューリヒ歌劇場でホリガーの《ルネア》が世界初演

スイスが誇るオーボエ奏者ハインツ・ホリガーは、指揮者や作曲家としても活躍しているが、彼の新作オペラが、チューリヒ歌劇場総裁でもあるアンドレアス・ホモキの演出で世界初演された。（3月25日所見）

